

3. 「子育てするなら富田林」を一層推進について。

(4) 学校施設の統廃合について。

- ① 本市は学校の統廃合についてどのように考えているのか。
- ② 義務教育学校や公立小中一貫校の設置を検討してはどうか。

【答弁】

3. 「子育てするなら富田林」を一層推進について。の(4)の①②につきまして、順次お答えいたします。

まず、①についてお答えいたします。

学校規模の適正化を図るものとして、平成27年1月に文部科学省が「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を作成しております。この手引きには、小学校で6学級未満、中学校で3学級未満の学校について、統廃合の適否を速やかに検討する必要があるとされております。

本市におきましては、現在のところ、この基準に該当する学校はございませんが、今後も、児童生徒数の減少が予想されます。少人数の場合、きめ細やかな指導が行いやすくなり、子どもの学習状況を的確に把握することができるというメリットもございますが、児童生徒間の人間関係が固定化されることや教職員数が減少することで、学校運営上の課題が発生することも懸念されます。

こうしたことから、本市教育委員会といたしましては、地域の様々な事情を考慮しつつ、小規模校における課題を解消するために、他市町村の事例も参考にしながら、学校の適正配置について、検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、②についてお答えいたします。

小学校から中学校への進学におきましては、新しい環境での学習や生活に不適應を起こす、いわゆる「中1ギャップ」と呼ばれる課題が生じており、小学校と中学校の円滑な接続が求められております。

その解消策の一つとして、議員ご提案の義務教育学校や公立小中一貫校を設置する市町村が増えてきております。義務教育学校や公立小中一貫校では、施設面の整備や子どもの発達段階に違いがあり過ぎることなどの課題もございますが、9年間の系統的・継続的な教育の実施や小学校段階での教科担任制の導入、異年齢交流の機会の大幅な拡大などにより、学習指導面や生徒指導面等で様々な成果が見られます。

本市教育委員会といたしましては、今後の在籍児童生徒数の動向を見極めながら、子どもたちにとって、魅力ある学校づくりをより一層進めるため、義務教育学校や公立小中一貫校の設置についても研究を進めてまいりたいと考えております。

以上、お答えとさせていただきます。